

一番茶後の中切りが翌年の一番茶収量および収量構成要素に及ぼす影響

矢野 清・池内 洋・河田和利

香川県農業試験場研究報告 第 61 号(2010 年 3 月) 71-75

一番茶後の中切りが翌年の一番茶収量および収量構成要素に及ぼす影響の解明を試みた。

1. 地上 50cm 高で中切りを行い，茶園土壌の種類別に中切り翌年の一番茶収量や収量構成要素をみたところ，いずれの土壌でも収量は中切り前に比べてやや減少し，摘芽数は減少し，百芽重はやや増大した。
2. 地上 60cm 高で中切りを行い，品種別に中切り翌年の一番茶収量や収量構成要素をみたところ，いずれの品種でも収量は中切り前に比べて増加し，摘芽数は減少し，百芽重は増大した。
3. 以上のことから，中切りの程度により翌年の一番茶収量や収量構成要素に及ぼす影響は異なるものの，一番茶後の中切りにより翌年の一番茶の芽数が減少し，芽重が増大し，いわゆる「芽伸び」が良好となると考えられた。

キーワード：茶園土壌，品種，中切り，一番茶収量，摘芽数，百芽重